

令和2年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	冬期間のハウスを活用したたまねぎ春どり作型の栽培法		
[要約] 秋まき極早生品種「スパート」を8月中下旬に播種し10月上中旬に無加温ハウスに定植することにより、5月上中旬に調製重300g程度のたまねぎが収穫可能である。					
キーワード	ハウス	春どり	新作型	県北農業研究所 園芸研究室	

1 背景とねらい

近年、新たまねぎの需要が高まっている中、4～5月期は東北地域産のたまねぎはほとんど出回っておらず、この時期の新たまねぎの生産・出荷が可能となれば、より幅広い需要に応えることができる。また、農業従事者の減少や高齢化が進む中、遊休ハウスが増加しており、これらを有効活用した収益の確保が課題となっている。

そこで、極早生品種の秋まきによるハウス春どり作型に適する品種、定植時期等について明らかにする。

2 成果の内容

(1) 冬期間のハウスを活用したたまねぎ春どり作型は以下のとおりである。

作型	品種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	適応地域	栽植距離	摘要
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下			
春どり	スパート (秋まき極早生品種)					○			○		●			県内全域	150cm×12cm 4条(22,222株)	無加温ハウス

図1 たまねぎ春どり作型

∩:ハウス ○:播種 ●:定植 —:生育期間 □:収穫期間 ■:出荷期間

(2) 秋まき極早生品種「スパート」は、調製重が重くL以上の割合が高く、腐敗・障害球発生も少ないことから、本作型に最も適する(表1, 図2)。

(3) 8月中下旬に播種し、10月上中旬に無加温ハウスに定植すると5月上中旬に収穫可能で、調製重300g程度、商品収量6t/10a程度が期待できる(表1, 2)。

3 成果活用上の留意事項

(1) 10月下旬以降の定植では、収穫時のりん茎が小さく、欠株が発生しやすくなるので定植が遅れないように留意する(表2)。

(2) 外部分球や抽だい等の障害球の発生が多くなるので極端な早期定植は避ける。

(3) 塩類濃度の高いほ場では、定植後に欠株が発生する恐れがあるので、栽培開始前まではハウスの屋根ビニールを外しておく等の対策が必要である。また、多肥を避ける。

(4) 冬期間の病害虫防除は不要であるが、3月以降はネギアザミウマ等の発生に留意し、必要に応じて防除を実施する。

(5) 冬期間もハウスビニールを展張した状態となるため、大雪の際には雪害対策を実施する必要がある。

(6) 当試験では、以下のとおり育苗およびハウス管理を実施した。

(ア) 育苗: 288穴セルトレイを用い、育苗培土「くみあいネギ専用培土」にマイクロロングトータル280 100日タイプを重量比2%添加したものを充填後、1粒播種、無加温ビニルハウスでベンチ育苗、播種後出芽まで被覆資材タイバックで被覆。

(イ) ハウス開閉: 定植～11月及び3月以降はハウス内気温が25℃以上で側面を開放、12月～2月はハウスを閉め切り。

(ウ) かん水: 厳寒期を除き土壌乾燥時にハウス両サイドに設置したチューブによる噴霧散水を実施。(毎回5～10mm程度)

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者 県内全域、JA 営農指導員、農業普及員

(2) 期待する活用効果 本県産たまねぎの出荷時期拡大に寄与する。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H30-09) 中山間地域における収穫・出荷期間の拡大に向けたたまねぎ新作型の開発[H30～R2/県単]

6 研究担当者 金森靖・細越翔太・横田啓

7 参考資料・文献 岩手農研 令和2年3月 春まきタマネギ栽培マニュアル

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 年次ごとの品種別収穫調査

年次 播種期 定植日 (月/日)	品種名	早晩性	収穫 日 ^{※1} (月/日)	りん茎		調製 重 (g)	欠株 率 (%)	腐敗 球率 (%)	裂皮 球率 (%)	外部 分球 率(%)	内部 分球 率(%)	抽だ い株 率(%)	商品 収量 ^{※2} (t/10a)
				横径 (mm)	高さ (mm)								
2019	スーパーアップ	秋まき超極早生	5/7	79.2	56.2	189.4	6.7	1.9	4.6	4.6	11.7	0.9	2.6
8/27	濱の宝	秋まき極早生	5/13	74.9	55.3	205.3	11.7	8.9	1.7	9.3	2.7	1.8	2.8
10/15	スパート	秋まき極早生	5/10	92.7	73.8	339.3	5.8	1.8	0.8	0.9	0.0	0.0	7.0
	スーパーリニア	秋まき極早生	5/5	82.6	64.4	237.3	5.0	2.6	6.8	1.7	2.5	1.0	4.0
	ソニック	秋まき早生	5/12	89.1	68.5	308.2	9.2	2.9	3.5	0.0	0.0	0.9	5.7
	レッドアロー	秋まき極早生(赤色)	5/7	73.9	53.0	160.9	5.8	0.0	3.4	8.5	6.0	0.9	2.3
2020	スーパーアップ	秋まき超極早生	5/4	84.7	55.7	212.1	6.7	3.4	6.2	9.2	15.9	1.0	2.7
8/26	濱の宝	秋まき極早生	5/9	91.9	58.2	258.1	0.0	12.5	8.3	11.7	20.0	0.8	3.4
10/16	スパート	秋まき極早生	5/9	99.7	76.5	379.7	4.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	スーパーリニア	秋まき極早生	4/30	91.2	70.4	292.3	0.8	11.0	5.1	5.1	7.6	7.5	4.5
	ソニック	秋まき早生	5/11	98.6	76.0	357.7	3.3	3.5	3.5	0.8	0.8	6.9	6.8
	レッドアロー	秋まき極早生(赤色)	5/1	80.6	60.8	195.7	0.0	0.8	0.0	4.2	7.5	4.2	3.5

※1 収穫日：過半数倒伏の1週間後 ※2 商品収量：規格外（りん茎横径6cm未満）、欠株、腐敗、障害球を除いた収量

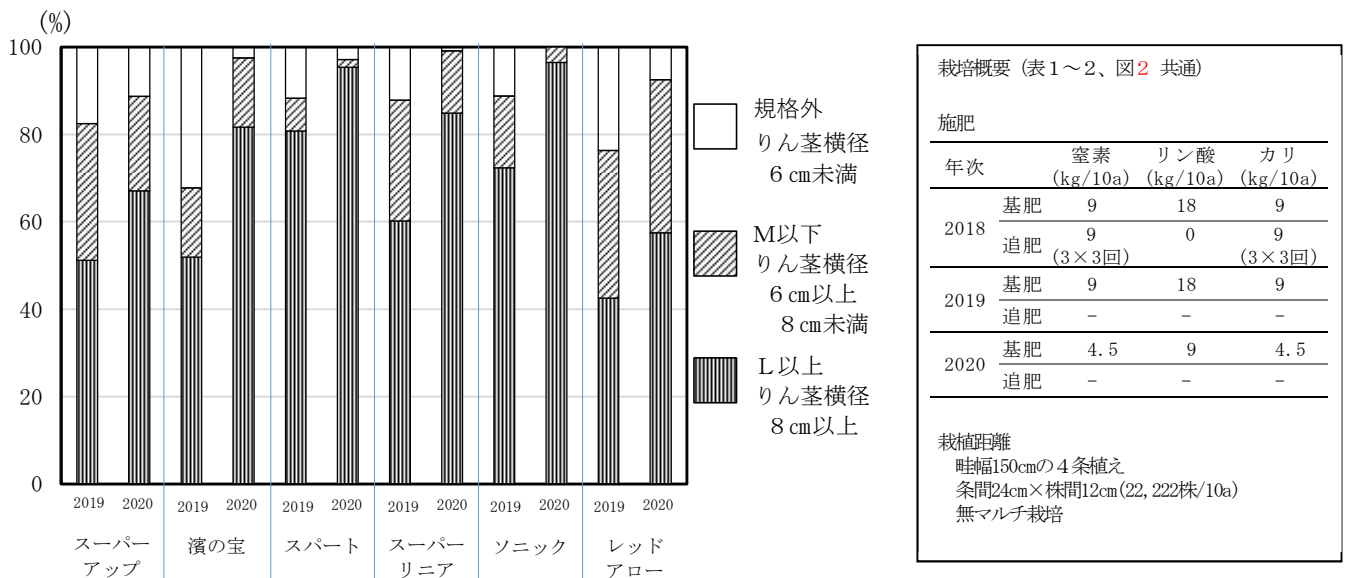


図2 品種別の出荷規格割合

表2 年次ごとの定植時期別収穫調査(品種:スパート)

年次	播種期 (月/日)	定植期 (月/日)	収穫日 ^{※1} (月/日)	りん茎		調製重 (g)	欠株率 (%)	腐敗球 率(%)	障害球 ^{※2} 率(%)	商品収量 ^{※3} t/10a
				横径(mm)	高さ(mm)					
2018	8/28	10/16	4/29	88.4	69.0	255.8	1.7	2.5	0.9	5.4
	9/11	10/30	5/3	90.0	66.6	254.6	36.7	22.9	1.4	2.9
	9/26	11/14	5/5	69.0	54.1	148.4	27.5	18.8	1.1	1.8
2019	8/15	10/4	5/12	92.1	72.1	355.4	13.0	2.3	4.9	6.1
	8/27	10/15	5/12	88.8	68.8	317.8	39.1	4.9	1.4	3.8
	9/10	10/30	5/14	69.9	59.8	179.5	76.6	2.6	0.0	0.8
	9/26	11/14	5/13	70.1	61.7	180.2	50.0	0.0	0.0	2.2
2020	8/16	10/4	5/4	101.9	75.8	378.9	0.5	0.5	14.4	7.0
	8/26	10/17	5/6	91.6	72.8	299.5	0.5	1.4	0.5	6.5
	9/10	10/30	5/9	88.8	70.6	243.4	2.8	0.0	1.4	5.2
	9/24	11/13	5/10	82.7	64.3	208.4	0.5	1.4	1.9	4.4

※1と※3は表1に同じ ※2障害球：裂皮、外部分球、内部分球、抽だいの発生球